

## 1. 略歴

1986年3月	東京大学文学部美術史学専修課程卒業（文学士）
1989年3月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了（文学修士）
1997年2月	フライブルク大学哲学部 Ph.D
1997年4月	電気通信大学電気通信学部助教授（～1999年3月）
1999年4月	東京学芸大学教育学部助教授（～2006年3月）
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月	同上准教授
2011年3月	同上教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

西洋美術史

### b 研究課題

デューラーを中心とした中近世ドイツ美術、聖遺物と美術との相関性、イメージ（像）の生動性、比較宗教美術史、造形物の記述に関する文化史的研究

### c 概要と自己評価

2018年度から副研究科長・教育研究評議員を務めたため、研究に割ける時間は激減したが、引き続き、宗教的な宝物や宮廷宝物についての比較美術史的研究を、美術と宝物との相関性および宮廷における宗教文化を意識しつつ展開した。また聖地形象や造形物および風景等の記述等についても比較宗教美術史的考察をも展開した。

2018年度には、フィレンツェ、マックス＝プランク研究財団美術史研究所長 G. ヴォルフが春に来日し、熊野の聖地を共に回り、新宮市と本郷キャンパスにおいて研究会を開催した。聖地や宝物の形成の根幹に人間と自然との「対話」がある、との氏の指摘は反響を呼び、引き続き調査・検討を行なうこととなった。6月にはハーバード大・名古屋大共催「像内納入ワークショップ」に参加、さらに新宮市で国際熊野学会との共催による地中海学会大会を企画・運営するといった活動を通じて、積極的な研究交流を推進した。

2019年度には、ジュネーブ大学の D. ガンボーニ教授と共に熊野を訪れ、現地と本郷キャンパスにおいてアニコニズムをめぐる研究会を開催するとともに、コロナ禍のために実現には至っていないがジュネーブにおける絵解きと修験に関わる比較美術史的セミナーを企画することとなった。9月にはフィレンツェにおける国際美術史学会第35回大会で、宗教的ヴィジョンについての比較美術史的研究に関わるセッションの共同座長を務め、11月には早稲田、12月には青山学院大学における比較宗教美術史のセミナーで発表を行なった。

なお、立ち上げから関わってきた全学の教育プログラム、体験活動プログラムには引き続き協力を続けてきたが、2017年度より新宮市および国際熊野学会の協力の下に、熊野における体験活動プロジェクトを開始するに至り、2018、2019年度も催行した。また、2019年度からは人文社会系研究科主催事業として総長裁量経費を得て「東大人文・熊野プログラム」を開始し、2020年1月に本郷キャンパス、3月に新宮市においてフォーラムを開催した。2015年から引き続き日本学術会議の連携会員として美術館・博物館委員会に所属し幹事を務め、学芸員の科研費取得資格の拡大に向けて作業を重ねている。

### d 主要業績

#### (1) 著書

単著、秋山聰、『聖遺物崇敬の心性史—西洋中世の聖性と造形』、講談社学術文庫、2018.10、312pp

分担執筆、秋山聰、『聖遺物と美術』、『美学の事典』、丸善、pp.186-187、近刊

#### (2) 論文

秋山聰、「デューラーにおける「測定」重視の背景について：「聖なる測定に関するノート」、『美術史論叢』36、2020.3、pp.55-66

#### (3) 学会発表等

秋山聰、「世界の中の熊野」、地中海学会第42回大会地中海トーキング、2018.6.21、新宮市福祉センター、和歌山県、2018.6.9

秋山聰、「コメント：像なのか、容器なのか」、国際ワークショップ「像内納入品研究の地平」、神奈川県立金沢文庫、神奈川県、2018.6.23

秋山聰、「アルプス以北における『古代』の再生と『古典』」、シンポジウム「西洋美術史における『古典』と『古典主義』」、名古屋大学、愛知県、2018.7.15

Akira Akiyama/Giuseppe Capriotti/Valentina Zivkovic, "The Mystical Mind as a Divine Artist: Visions, Artistic Production, Creation of Images through Empathy, 35<sup>th</sup> CIHA Congress, Firenze, Italy, 2019.9.2

Akira Akiyama, "On Vestments for Statues, from Comparative Perspectives" International Workshop: Modern Sacred Images in Europe and Japan: Contact, Comparison, Conflict, Waseda University, Tokyo, 2019.11.22

秋山聰、「聖像と聖なるモノのエージェンシー：比較宗教美術史の試み」、シンポジウム「東西の聖なるもの：比較文化論を拓く」、青山学院大学総合研究所・人文科学研究所、東京都、2019.12.21

(4) 翻訳

秋山聰/太田泉フロランス共訳、マデリン・キャヴィネス、「ザクセンシュピーゲル彩飾写本における女性とマイノリティ」『日本学土院紀要』、72 巻特別号、7-48 頁、2018.3

(5) 研究テーマ

科学研究費補助金、挑戦的萌芽研究、秋山聰、研究代表者、「造形作品の記述についての文化史的観点からの萌芽的研究」、2018～2019

科学研究費補助金、基盤研究 (B) 秋山聰、研究代表者、「中世宝物の贈与・寄進に関する比較美術史学的研究」、2018～2020

### 3. 主な社会活動

(1) 学会等

美術史学会、常任委員、2018.4～、事務局長、2019.5～

地中海学会、常任委員、2018.4～

国際美術史学会 (CIHA) 日本委員会、事務局長、2018.4～

日本学術会議、連携会員、博物館・美術館委員会幹事、2018.4～

Art in Translation 誌 (英国)、Advisory Board、2018.4～

Iconographica 誌 (イタリア)、Advisory Board 2018.4～